

第五篇 全支作戦展開前ニ於ケル第三艦隊ノ行動

第一章 第三艦隊司令長官ノ措置

第一節 蘆溝橋事件勃發ヘノ應急措置

七月十一日迄ニ各隊配備ヲ完了ス

昭和十二年六月以降第三艦隊ハ司令長官海軍中將長谷川清ノ統率下ニ、現ニ揚子江流域各地警備中ノ第十一戰隊及廣東警備中ノ驅逐艦早苗ヲ除キ、其ノ大部ヲ以テ戰技諸訓練並ニ第三艦隊馬公要港部・臺灣軍聯合基本演習ノ爲馬公・高雄方面ニ出動中ナリシガ、七月八日午前十一時日支兩軍蘆溝橋ニ於テ衝突ノ報ニ接シ、取敢ヘズ第十戰隊第二小隊天龍田龍ニ四時間待機ヲ命ズルト共ニ、旅順要港部司令官ニ其ノ麾下警備驅逐艦二隻ヲ塘沽方面ニ急派方ヲ協議シ、事件ノ推移ヲ注視シツツアリシガ、同日夕刻軍令部次長及海軍次官ヨリ、第三艦隊ハ情況ニ依リ警備配備ニ就クヲ要スルニ至ルベキ旨ノ申進ヲ受領セリ。仍ツテ第三艦隊司令長官ハ右ノ情況ニ鑑ミ、七月八日午後十一時三十分演習ヲ取止メ、第十戰隊及第五水雷戰隊ニ對シ各固有配備地ニ急速復歸スベキ旨發令シ、九日午前一時出雲ヲ率キ高雄發上海ニ歸投セリ。第十戰隊

(出雲缺)ハ青島ニ、又第五水雷戰隊ハ南支沿岸ニ夫々急行シ、十一日早朝迄ニ各配備ヲ完了セリ。爾後第三艦隊ハ旅順馬公兩要港部兵力ノ一部ノ協力ヲ得、極力支那側ヲ挑發セザル中央方針ニ則トリ固有警戒配備ニ依リ警備ニ任ジタリ。

之ヨリ先第三艦隊司令長官ハ七月九日夜北支事態ノ前途逆睹ヲ許サザル情勢ヲ察シ、麾下一般ニ對シ愈軍紀風紀ヲ振作シ術力ヲ鍊成シ、以テ難局ニ對處スベキ旨ヲ警告シ、且支那空軍ノ對日戰備相當ニ進ミアルノ實情ニ鑑ミ、十一日早朝對空警戒ヲ嚴ニスベキコト及居留民引揚方策ニ關シ指令スル所アリタリ。

七月十一日正午現在第三艦隊ノ編制及兵力配備次ノ如シ。

第三艦隊編制及兵力配備

第三艦隊編制及兵力配備

第	隊		艦		所
	司令長官直率	號	(隊)	名	
	第十戰隊(出雲缺)				
	天龍・龍田	口出雲			上
	八重山・保津・二見・小鷹				漢
	堅田(特定修理中七月三十一日竣工)・栗				青
					島
					上
					海

三			艦			隊		
第十一戰隊			第五水雷戰隊			附屬		
栂	蓮	熱海	勢多	鳥羽	比良	安宅(特定修理中)	夕張・朝顔	芙蓉・刈萱
							早苗	若竹・吳竹
							嵯峨(特定修理中)	
							上海海軍特別陸戰隊(本部及四箇大隊約二、二〇〇名)	
							上海海軍特別陸戰隊漢口分遣隊(一箇大隊二三〇名)	
南京	蕪湖	九江	長沙	宜昌	重慶	吳	厦門	馬尾
							廣東	汕頭
							馬公	上海
							漢口	

第二節 第三艦隊ノ作戰計畫

第一項 對支作戰用兵ニ關スル第三艦隊

司令長官ノ意見具申

對支作戰用
兵ニ關スル
意見具申

第三艦隊司令長官ハ七月十五日受領ノ軍令部對支作戰用兵ニ關スル内示事項^{頁二九八以下}ニ就キ研究セル結果、右ハ更ニ研究ノ餘地アルモノト認メタルヲ以テ、次ノ如ク軍令部次長宛意見具申ヲ爲シタリ。

對支作戰用兵ニ關スル意見

昭和十二年七月十六日

一 作戰指導方針ニ關シ

支那第二十九軍ノ膺懲ナル第一目的ヲ削除シ、支那膺懲ナル第二目的ヲ作戰ノ單一目的トシテ指導セラルルヲ要ス。

(理由) 一 武力ヲ以テ日支關係ノ現狀打開ヲ策スルニハ支那膺懲即チ現支那中央勢力ノ屈服以外ニ途ナシ。

二 支那第二十九軍ヲ膺懲スルモ前項支那膺懲ノ實質的效果ナシ。

三 戰域局限ノ方針ニ依ル作戰ハ期間ヲ遷延シ且敵兵力ノ集中ヲ助ケ我ガ作戰ヲ困難ナラシムル虞大ナリ。

二 用兵方針ニ關シ

(一) 當初ヨリ戰局擴大ノ場合ノ作戰所謂第二段作戰ヲ開始セラルルヲ要ス。

(理由) 一項ノ部ニ同ジ。

(二) 中支作戰ハ上海確保及南京攻略ニ必要ナル兵力ヲ以テスルヲ要ス。

(理由) 支那ノ死命ヲ制スル爲ニハ上海及南京ヲ制スルヲ以テ最要トス。

(三) 中支作戰ノ爲派遣セラルル陸軍ヲ五箇師團トスルヲ要ス。

(理由) 前號ノ理由ニ同ジ。

(四) 開戰劈頭ノ空襲ハ我ノ使用シ得ル全航空兵力ヲ以テシ、第二航空戰隊ヲモ

當然之ニ含マシムルヲ要ス。

(理由) 一 作戰ノ發端ニ於テ敵航空勢力覆滅ノ爲ニ行フ空襲ノ成否如何ハ

爾後ノ作戰ノ難易遲速ヲ左右スル鍵鑰ナリ。

二 第二航空戰隊ノ飛行機ハ特ニ遠距離空襲ニ適ス。

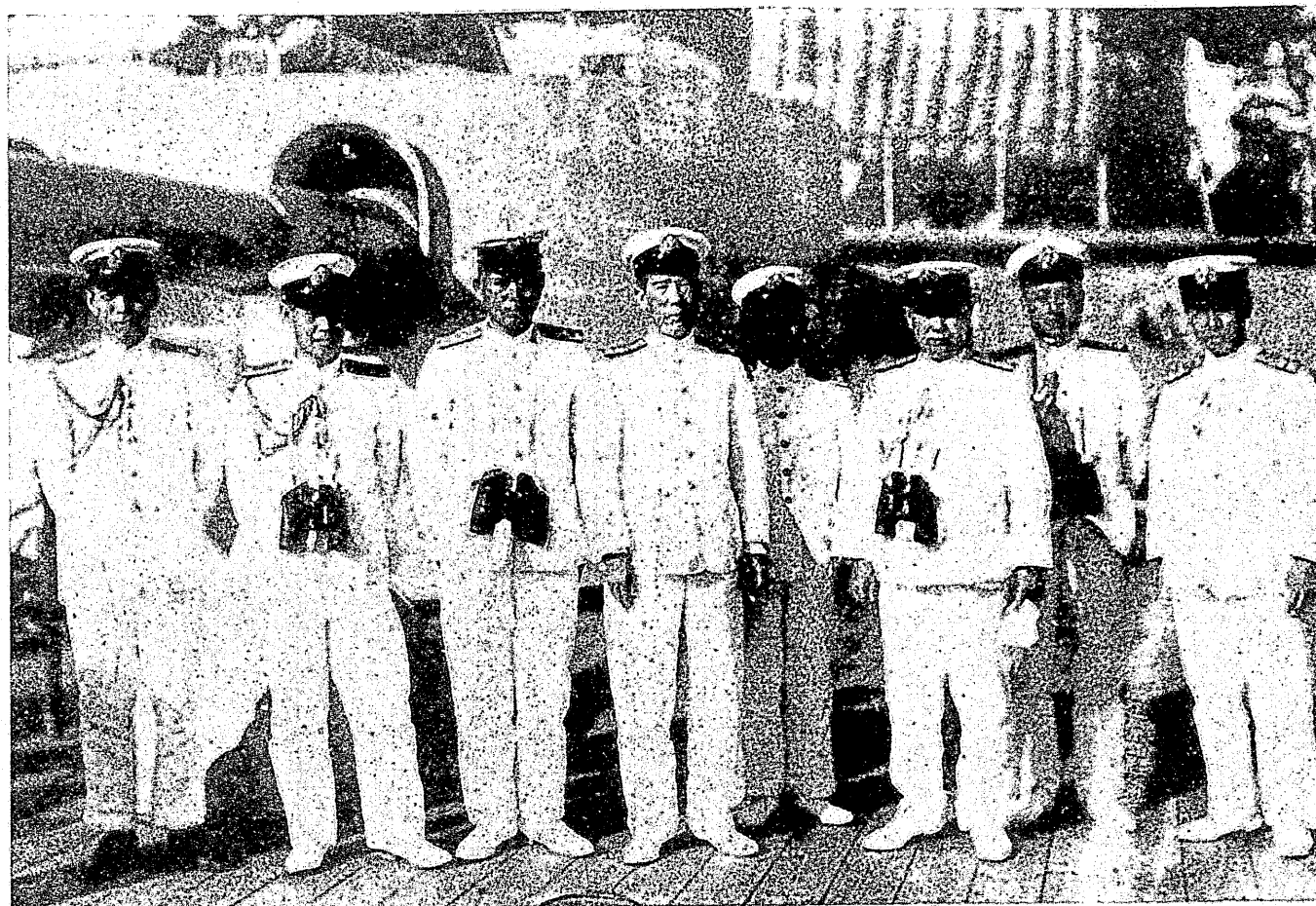
第五篇 全支作戦展開前ニ於ケル第三艦隊ノ行動

四〇二

三 作戦部隊軍隊區分(参考案)ニ關シ

第二航空戦隊ヲ北支部隊ヨリ除キ、之ヲ航空部隊中ノ空襲部隊トセラルルヲ要ス。

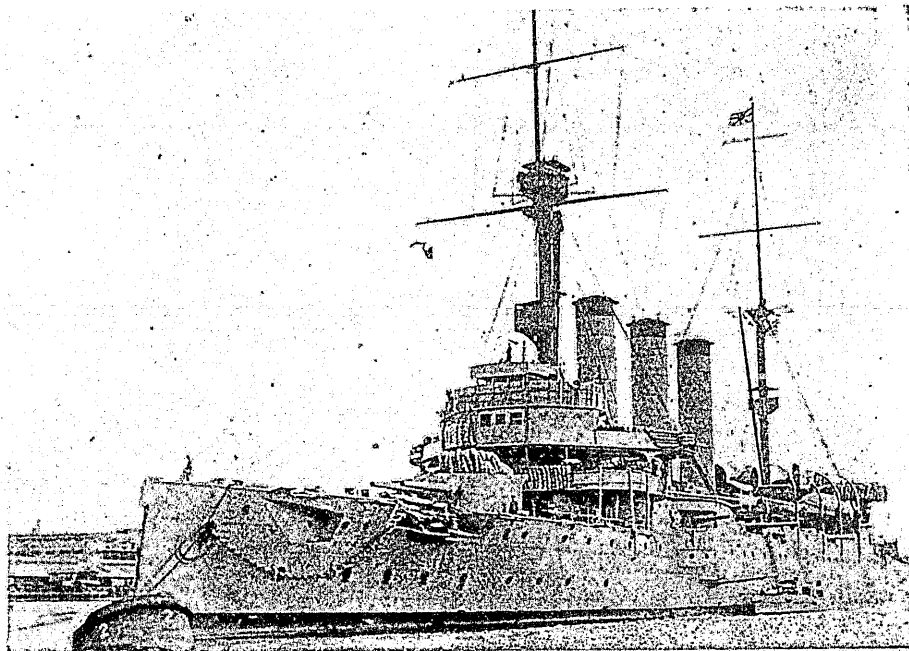
(理由) 第二項(四)ノ理由ニ同ジ。



第三艦隊首脳

中央長谷川司令長官

1121



黄浦江上ノ第三艦隊旗艦出雲

第二項 第三艦隊作戦計畫案ノ策定竝ニ其ノ内示

第三艦隊司令長官ハ軍令部案作戦計畫内示事項竝ニ右ニ對スル同長官ノ中央ニ致セル修正意見ニ基キ、七月十九日第三艦隊作戦計畫内案ヲ立案シ、取敢ヘズ麾下各司令官ニ内示シ以テ各隊警備任務遂行ニ就キ準據スベキ所ヲ明カニセルガ、更ニ二十八日深更ヨリ翌二十九日早朝ニ互リ大海令其ノ他重要ナル中央發令ヲ受領シ、艦隊編制ノ改定竝ニ第三艦隊ノ作戦目的ヲ明示セラレタルヲ以テ、三五八頁以下參照之ニ基キ曩ニ麾下各司令官ニ内示セルモノニ修正ヲ加ヘテ次ノ如ク第三艦隊作戦計畫案ヲ策定シ、改メテ麾下竝ニ増派部隊各司令官ニ内示シ、且聯合第二各艦隊參謀長及軍令部第一部長宛送付セリ。

第三 艦隊作戦計畫案

昭和十二年七月二十九日

一 作戦ノ目的

陸軍及聯合艦隊ト協同シ支那陸海空軍ヲ擊破ス。但シ先ヅ平津地域ニ於ケル陸軍ノ對支那第二十九軍作戦ニ協力、其ノ輸送ヲ護衛スルト共ニ各地居留民ヲ

保護ス。

二 作戰方針

第一段作戰(戰域ヲ平津地方ニ局限スル場合)

- (一) 中・南支各地ノ警戒ヲ嚴ニシ不慮事件ノ發生ニ備フ。
- (二) 上海・青島ノ居留民ハ飽迄現地保護シ、其ノ他ハ情勢ニ應ジ之ヲ護衛引揚ゲシム。

(三) 擴大作戰ニ應ズル諸般ノ準備計畫ヲ急速完成ス。

(四) 必要ニ應ジ友軍ノ作戰ニ協力ス。

第二段作戰(支那全土ニ戰域擴大ノ場合)

(一) 劈頭全航空兵力ヲ以テ敵空軍ヲ覆滅ス。

(二) 上海・青島兩地ニ於テ陸戰隊ヲ以テ要點ヲ占領シ、我が據點ヲ固ム。特ニ附近航空基地ヲ迅速整備確保ス。

(三) 上海・青島(天津)ノ居留民ハ現地保護シ、爾他ノ各地居留民ハ爲シ得ル限り、本作戰開始前ニ引揚ゲシム(引揚時機ハ中央ノ指令アル筈)。

(四) 敵海軍艦船ニ對シ嚴正中立、現在地不動ヲ警告シ、違背スルモノハ猶豫ナ

ク之ヲ撃滅ス。但シ情況ニ依リ拿捕又ハ封鎖閉塞ス。

(五) 派遣陸軍ヲ護衛ス。但シ其ノ青島方面ニ對スルモノハ第二艦隊之ニ任ズ。上海青島方面先遣部隊ハ混成一箇旅團(一箇聯隊)ナル豫定。

(六) 揚子江下流及浙江沿岸其ノ他我が兵力所在地ニ於テ局地的平時封鎖對敵國船舶ヲ實施ス(實施時期ハ中央ノ指令ニ依ルヲ例トス)。

(七) 馬鞍群島ニ前進根據地ヲ設營シ、水上機基地、艦船燃料補給等ニ充ツ。

(八) 陸戰隊、航空機及艦船ヲ以テ陸軍ノ作戰ニ協力ス。

三 兵力部署 各部隊ノ行動

第一段作戰

表中兵力ノ欄「」内ハ馬公要港部又ハ旅順要港部派遣ノモノ、()内ハ増派サルベキモノ

區分	兵力	任務	行動概要	指揮官
	第十戰隊第二小隊・第十六驅逐隊・第十四驅逐隊・「淀」・(木曾)・嚴島・多摩・(長鯨)・橫濱	一 北支特ニ青島・天津警備 二 陸軍輸送ノ護衛 三 必要ニ應ジ平津作	一 第十戰隊第二小隊・第十六驅逐隊ハ主トシテ青島ニ警泊 二 第十四驅逐隊ハ天津・	初期 第十戰隊

北支部隊		中支部隊	
第一特陸)・(吳鎮第一特陸)・(第二艦隊)		出雲・第十一戰隊・上海特別陸戰隊・(第八戰隊)・(第一水雷戰隊)・(第三水雷戰隊)・(吳鎮第二特陸)・(佐鎮第一特陸)	
戰ニ協力 四 支那第三艦隊監視		一 上海・揚子江流域各地警備 二 所在支那海軍監視 三 對中支陸軍輸送アル場合其ノ護衛 四 前進航空基地ノ獲得準備	
塘沽方面警泊 三 陸軍海上輸送ヲ護衛 四 情況ニ依リ機宜行動シ對敵警戒監視 五 増派部隊ノ發動ハ令ニ依ル		一 出雲・第十一戰隊ノ驅逐艦及砲艦各一ハ主トシテ上海警泊 二 爾餘ノ第十一戰隊ハ揚子江各地警泊又ハ對敵偵察監視 三 輸送護衛ハ増派部隊ヲ以テスルヲ例トス 四 増派特陸ハ令アル迄租界及越界路區以內ニ待機警備 五 居留民引揚ノ場合之ヲ掩護ス	
三 艦隊司令官		第三艦隊司令官	
司令官 (第二艦隊司令官)		司令官 (第三艦隊司令官)	

第二段作戦

(一) 兵力部署

南支部隊	・(第十二戰隊)・(第一掃海隊)・(第十一掃海隊)・(第一防備隊)・(白鷹)・(鶴見)・(隱戸)・(第二十二航空隊)
航空部隊	第一聯合航空隊
備考	一 本作戰ニ在リテハ増派部隊ハ特別ノモノヲ除キ内地待機中ナルヲ例トス 二 或時期以後北支部隊ハ第二艦隊司令長官之ヲ指揮ス 三 第十六驅逐隊ハ適當ノ時機ニ復歸セシム
進出準備訓練	護 四 馬鞍群島前進根據地設營準備
待機・訓練、特令ニ依リ進出ス	行動シ對敵偵察監視 二 前進根據地設營著手ハ令ニ依ル 三 居留民引揚ノ場合之ヲ掩護ス
第一聯合航空隊司令官	長 第五水雷戰隊司令官 (第九戰隊司令官)

備考

- 一 本作戦ニ在リテハ増派部隊ハ特別ノモノヲ除キ内地待機中ナルヲ例トス
- 二 或時期以後北支部隊ハ第二艦隊司令長官之ヲ指揮ス
- 三 第十六驅逐隊ハ適當ノ時機ニ復歸セシム

區分	艦 船 部 隊	任 務	指 揮 官
北 支 部	第四戰隊・第五戰隊・第二水雷戰隊・第四水雷戰隊・第二潜水戰隊・第十戰隊第二小隊・(第二航空戰隊)・第二聯合航空隊		第二艦隊司令長官

第一章

第三艦隊司令長官ノ措置

(考參) 隊	中 支 部 隊	南 支 部 隊
第二十一航空隊・長鯨・鳴戸・横鎮第一特陸・吳鎮第一特陸 「旅要部隊協力ス」	第十戰隊第一小隊・第十一戰隊・第八戰隊・第一水雷戰隊・第三水雷戰隊・上海特陸・吳鎮第二特陸・佐鎮第一特陸	第九戰隊・(第十二戰隊)・(第一潜水戰隊)・第五水雷戰隊・(第二十二航空隊)・白鷹・第一掃海隊・第十一掃海隊・第一防備隊・鶴見・隱戸・嵯峨 「馬要部隊協力ス」
	一 上海附近ノ確保 居留民保護 (二) 附近要地要點ノ占領確保 前進航空基地ノ占領整備確保 二 前進航空基地ノ占領整備確保 (江灣・公大・楊樹浦・龍華・崇明島) 三 敵艦船ノ監視處分 四 揚子江南京下流ノ水上管制 五 崇明島攻略 六 揚子江口封鎖、敵船舶抑留 七 中支派遣陸軍ノ護衛竝ニ陸上作戰ニ協力	一 南支所在敵艦船ノ監視及處分 二 寧波・溫州・三都澳・馬尾・泉州灣・廈門・銅山灣・汕頭・神泉港(惠來)・廣東等ヲ封鎖シ、敵船舶ヲ抑留ス 三 馬鞍群島(泗礁山)ニ前進根據地設營
	第三艦隊司令長官	第九戰隊司令官

(二) 各部隊ノ行動
(イ) 北支部隊(略)

備考	航空部隊			
	第四空襲部隊	第三空襲部隊	第二空襲部隊	第一空襲部隊
備考 第一段作戦ヨリ第二段作戦ニ轉換スル時期ニ於ケル兵力部署ハ情況ニ依リ必ズシモ一齊ニ右ニ據ラザル場合アリ	第十二航空戦隊	第一聯合航空隊	第二航空戦隊	第一航空戦隊
	一 南支方面敵空軍覆滅 二 南支方面敵艦艇ノ監視處分 三 馬鞍群島(泗礁山)ニ前進飛行基地設營	一 中・南支方面敵空軍ノ覆滅 二 支那内地ニ於ケル要地重要施設ノ破壊	同 右	一 中支方面敵空軍覆滅 二 中支方面ニ於ケル要地重要施設ノ破壊 三 敵艦艇掃蕩(要スルトキ) 四 陸上戦闘ニ協力 五 派遣陸軍ノ護衛
	第十二戦隊司令官	第一聯合航空隊司令官	第二航空戦隊司令官	第一航空戦隊司令官

(ロ) 中支部隊

- 一 第十一戰隊ハ中央指令ニ依ル時機ヨリ揚子江流域各地居留民引揚ヲ掩護シツツ逐次下江シ、開戰時其ノ大部ヲ概ネ上海ヨリ通州水道ニ至ル區域ニ集結シアルモノトス。
- 二 出雲ハ主トシテ上海ニ在リ、情況ニ依リ吳淞又ハ馬鞍群島ニ移動ス。又陸戰隊ヲ揚陸シ『六』作戰ニ協力ス。
- 三 第十一戰隊ハ其ノ一半ヲ以テ吳淞ヨリ江陰ニ至ル水路ヲ制シ、他ノ一半ヲ以テ黃浦江内ノ水路ヲ制シ、敵艦船船舶ノ處分ニ任ズ。
- 四 第十一戰隊ノ一部及漢口陸戰隊ヲ以テ崇明島ヲ急襲攻略シ、陸上航空基地ヲ整備ス。
- 五 第八戰隊第一水雷戰隊(驅逐隊一隊缺)ハ特別陸戰隊揚陸後、吳淞要塞ヲ攻略シ、爾後吳淞ヨリ下流揚子江ノ水路ヲ管制シ、敵艦船船舶ノ處分ニ任ズ。情況ニ依リ第十一戰隊ニ協力ス。
- 六 第一水雷戰隊ノ驅逐隊一隊(出雲陸戰隊(大隊長ノ指揮スル一箇中隊)及第一水雷戰隊陸戰隊(二箇中隊)ヲ加フ)ハ龍華飛行場ヲ急襲占領シ、其

ノ整備確保ニ任ズ。此ノ際第十一戰隊ノ一部協力ス。

七 第三水雷戰隊ハ中支派遣陸軍ノ乗船地又ハ其ノ附近ヨリ之ガ海上護衛ニ任ズ。又一部ヲ以テ空襲部隊ノ作戰ニ協力シ、又情況ニ依リ揚子江内ノ作戰ニ協力ス。

八 上海海軍特別陸戰隊、吳鎮守府第二特別陸戰隊、佐世保鎮守府第一特別陸戰隊及別示セザル艦船陸戰隊ハ上海海軍特別陸戰隊司令官之ヲ指揮シ、速ニ閘北江灣ノ要點ヲ占取確保シ、居留民及重要施設、龍華以外ノ各前進航空基地ヲ含ムノ警衛ニ任ズ。

(ハ) 南支部隊

一 開戰劈頭第十二戰隊、第二十二航空隊ヲ以テ南支敵航空兵力(主目標廣州)ヲ空襲ス。但シ情況ニ依リ第二十二航空隊ハ上海方面ノ作戰ニ加フルコトアリ。

二 第九戰隊、第五水雷戰隊、第一潜水戰隊、神威、第二十八驅逐隊ハ海州灣(含マズ)以南ノ中南支沿海ヲ行動シ、所在敵艦船ヲ監視處分シ、敵船舶ヲ抑留ス。又一部ヲ以テ空襲部隊ノ作戰ニ協力ス。

第五篇

全支作戦展開前ニ於ケル第三艦隊ノ行動

四二二

三 第十二戰隊(神威第二十八驅逐隊ヲ除ク)白鷹第一掃海隊第十一掃海隊第一防備隊(鶴見第二十二航空隊)ハ馬鞍群島(泗礁山)ニ前進根據地ヲ設營ス。

四 隱戸(情況ニ依リ鶴見)ハ前進根據地又ハ南支沿海ニ在リテ補給ニ任ズ。

五 航空機及掃海艇ヲ主トスル一部兵力ヲ以テ中支派遣陸軍ノ上陸掩護及中支部隊ノ作戰ニ協力スルコトアリ。

六 神威飛行艇ハ主トシテ前進根據地又ハ上海方面ヨリ遠距離交通連絡ニ任ズ。蟻蛾ノ行動ニ關シ指定ナキハ當時入渠中ナリシ爲ナリ

(ニ) 空襲部隊

一 開戦第一日黎明全航空兵力ヲ擧ゲテ敵航空基地ヲ急襲シ、敵空軍ヲ覆滅ス。此ノ場合飛行機隊ノ行動ハ特ニ隱密ヲ旨トシ高高度天象等ノ利用ニ努ムルモノトス。

第一次空襲目標

第一空襲部隊 杭州、笕橋、一部ヲ以テ虹橋

第二空襲部隊 廣徳句容情況ニ依リ南京

第三空襲部隊

木更津航空隊(濟州島ヲ基地トス) 南京

鹿屋航空隊(臺灣ヲ基地トス) 南昌

第四空襲部隊

廣州

二 第一第二第三空襲部隊ハ第一次空襲終了後成ルベク速ニ前進航空

基地ニ進出シ(進出時機ハ特令ス)殘敵ノ掃蕩、敵要地重要施設ノ破壞、敵

艦艇ノ掃蕩(要スルトキ)ニ任ジ、又陸上戰鬪及派遣陸軍ノ護衛ニ協力ス。

(一) 第二次及以後空襲目標別圖參照(別圖ハ四一六頁ノ一附圖第十)

(イ) 主要航空施設

第一次空襲ニ攻撃セザリシ主要飛行場

南昌・杭州・韶關各飛行機製造廠

杭州貯油庫

南京・南昌・洛陽各修理工廠及材料庫

(ロ) 主要官衙

第一章

第三艦隊司令長官ノ措置

在南京主要官衙

(ハ) 江陰砲臺機雷敷設艇・高速艇

(ニ) 主要兵工廠

南京・漢陽各兵工廠、國防硫酸銨廠

(ホ) 交通要點

浦口・徐州・株州

(二) 前進航空基地使用區分

第一・第二・第三空襲部隊 上海(江灣競馬場・龍華飛行場・楊樹浦・ゴルフ)

場及埋立地・楊樹浦競馬場及崇明島

但シ陸軍部隊上海到着後ノ使用區分ニ關シテハ別ニ協定ス。

第四空襲部隊 馬鞍群島(泗礁山)

四 通信 別ニ定ム。

五 補給 略省

六 前進根據地ノ防備

(一) 泗礁山根據地ノ防備ハ對空ヲ主トシ、對潜及對水上艦艇ヲ副トス。

(二) 固定施設計畫左ノ通。

名 稱	位 置	施 設	記 事
監 視 所	第一監視所 泗礁山東部 △一五七附近	一 見張施設 二 信號通信施設 三 隊内無線通信施設	
所 第二監視所	金雞山△一二附近又ハ泗礁 山北西部△一一一附近	同 右	
砲 臺	第一監視所附近	八糧高角砲 九〇糧探照燈 一基	
臺 第二砲臺	第二監視所附近	同 右	
水 中 聽 音 所	外 礁	一 水中聽音施設 二 信號通信施設 三 隊内無線通信施設	情況ニ依リ設置ス

七 諜 報 略省

作戰計畫案
ニ對スル軍
令部第一部
長ノ申進

右ノ作戰計畫案内容ニ關シ八月一日軍令部第一部長ヨリ次ノ通第三艦隊參謀長宛
電アリタリ。

第一章 第三艦隊司令長官ノ措置

第五篇 全支作戦展開前ニ於ケル第三艦隊ノ行動

四一六

貴艦隊作戦計畫案中青島基地攻略ノ件ハ陸軍ノ豫定兵力及國際關係ニ鑑ミ一應中止セラルルヲ妥當ト認ム。

1136

作戰任務ノ
大綱指示

第三節 第三艦隊作戰命令其ノ他ノ發令

前節記載ノ如ク七月二十九日第三艦隊作戰計畫案ノ策定及内示ヲ了シタル第三艦隊司令長官ハ同日作戰ニ關シ左ノ通發令セリ。

七月二十九日午前四時四十分發電 發 第三艦隊司令長官

宛 第十戰隊第十一戰隊第五水雷戰隊上海海軍特別陸戰隊各司令官第十六驅逐隊司令(通報) 軍令部總長聯合第二各艦隊各鎮守府各司令長官各要港部駐滿海軍部各司令官在支大使館附武官)

第三艦隊機密第二八三番電

- 一 當艦隊ノ作戰任務ハ軍令部機密第三六二番電大海令第二號ノ通
- 二 當艦隊第十戰隊第二小隊ヲ除クハ海州灣(含マズ)以南ノ支那國沿岸並ニ揚子江方面ヲ嚴戒ス。

三 第十戰隊(出雲ヲ除ク)ハ作戰ニ關シ第二艦隊司令長官ノ指揮ヲ受クベシ。

四 第十六驅逐隊ハ當面ノ作戰ヲ第二艦隊ニ引繼ギ次第成ルベク速ニ上海ニ

回航スベシ。

五 使用時ハ中央標準時トス。

七月二十九日午後八時發電 發 第三艦隊司令長官

新編入及新
附屬艦船部
隊ノ行動指
示

宛 第三艦隊(通報 聯合第二各艦隊各鎮守府各司令長官海軍次官軍令部次長馬
公旅順舞鶴各要港部司令官)

第三艦隊機密第二八八番電

新ニ編入及附屬艦船部隊ハ左記ニ依リ行動スベシ。

一 別令アルモノノ外速ニ出動準備ヲ完成シ各指定地又ハ其ノ附近ニ在リ
テ二十四時間待機ノ状態ヲ以テ教育訓練ヲ勵行スベシ。

二 第九戰隊(多摩ハ輸送任務終了後)佐世保方面待機。

三 第十二戰隊第一防備隊白鷹第十一掃海隊第一掃海隊第二十二航空隊ハ
第十二戰隊司令官之ヲ指揮シ馬鞍群島(泗礁山)ニ設營スベキ前進水上航空
基地及補給基地準備計畫ヲ整ヘ佐世保方面ニ待機。

但シ神威第二十二航空隊及第二十八驅逐隊ハ南支方面急速進出ノ準備ヲ

第一聯合航空隊ノ飛行
警戒並ニ基地員輸送ニ
關スル第三水雷戰隊ヘ
ノ命令

爲シ置クヲ要ス。

四 第三水雷戰隊(北上ハ差當リ古江待機)ハ同司令官ノ定ムル所ニ依リ佐世保又ハ鹿兒島灣方面ニ於テ待機。

五 吳鎮守府第二特別陸戰隊佐世保鎮守府第一特別陸戰隊及第一聯合航空隊ハ現待機繼續。

六 鶴見隱戸ハ右各艦船部隊ノ補給ニ任ジ特ニ第三項作業ニ協力スベシ。

七 内地待機艦船部隊ノ聯合諸作業ノ實施ハ別ニ令スルモノノ外第九戰隊司令官ヲシテ指揮セシム。

八 各級指揮官ハ既ニ報告セルモノノ外速ニ各艦船部隊ノ現狀及行動豫定ヲ報告スベシ。

七月二十九日午後十一時十分發電 發 第三艦隊司令長官

宛 第九戰隊第三水雷戰隊各司令官第二十三驅逐隊第二十一水雷隊各司令第一

聯合航空隊司令官(通報 佐世保鎮守府司令長官)

第三艦隊機密第二八九番電

第一章 第三艦隊司令長官ノ措置

一 第三水雷戦隊ハ左記ニ依リ第一聯合航空隊ノ飛行警戒竝ニ基地員ノ輸送ニ任ズベシ。

(一) 第二十三驅逐隊ノ一艦ヲシテ前進基地移動ノ際那覇港基地員ノ輸送警戒。

(二) 第二十一水雷隊ノ一艇ヲシテ現ニ實施中ノ鹿屋方面飛行警戒。

二 前進基地移動ノ際ノ前項以外ノ飛行警戒竝ニ基地員ノ第二次輸送ニ關シテハ追テ令ス。

第三艦隊ニ
對スル第三
艦隊參謀長
ノ申進

尙之ヨリ先七月二十八日第三艦隊參謀長ハ第三艦隊ニ對シ當時ノ逼迫セル情勢ニ對スル態度ヲ左ノ如ク申進セリ。

上海附近ニ於テ支那側ハ一觸即發ノ準備ヲ整ヘ若シ何等カノ誘因アラシカ各地一齊發動ノ計畫アル旨ノ諜報アリ。全艦船部隊ハ一層警戒ヲ嚴ニスルト共ニ我ノ用意成ル迄特ニ自重セラレ度。

第三艦隊司令長官ノ麾下各級指揮官ニ對スル訓示

更ニ八月一日第三艦隊司令長官ハ麾下各級指揮官ニ對シ、次ノ如ク訓示スル所アリタリ。

時局ニ際シ各級指揮官ニ訓示

日支兩國關係ハ日々緊張ヲ加ヘ、北支ノ事態全土ニ及バントスルノ兆、時ト共ニ濃化シツツアリ。而モ帝國ハ極東平和ノ爲事件不擴大ノ方針ヲ堅持シ、事態ノ迅速解決ニ有ラユル努力ヲ拂ヒアリ。

當艦隊警備ノ責務誠ニ今日ノ如ク重大ナルハナシ。艦隊ハ今ヤ新銳ノ兵力ヲ加ヘテ重大時局ニ應ズルノ姿勢ヲ整ヘ此ノ重責ニ當ラントス。各員ハ其ノ職分ニ應ジ、計畫ニ研究ニ整備ニ將又訓練ニ全力ヲ傾注シ、上下一致艦隊ノ威力發揚ニ些ノ違算アルベカラズ。

時正ニ炎熱ノ候、將兵ノ士氣ハ時局ノ一張一弛ト相俟チテ時ニ弛緩ヲ來ス虞ナシトセズ。今次上海海軍特別陸戰隊ノ宮崎水兵事件^{四四三頁参照}ニモ鑑ミ、此ノ際更ニ軍紀ノ肅正、士氣ノ振作ニ努メ、以テ上下ノ倚託ニ應ゼンコトヲ望ム。

第四節 和戰兩様ノ事前工作

第一項 第三艦隊司令長官ノ支那軍部ヘノ申入

七月二十九日第三艦隊司令長官支那海陸軍ニ申入ヲ行フ

七月二十三日海軍中央部ヨリハ第三艦隊司令長官ニ對シ支那海陸兩軍部ニ對スル帝國海軍ノ北支事變對處方針申入方指示官房機密第五二七番電三三九頁參照アリタルガ、更ニ同月二十八日上海ニ出張セル近藤軍令部第一部長ヨリ『今ヤ申入アリテ然ルベシ』トノ意思表示アリタリ。

又一方同日支那駐屯軍ハ北支ニ於テ獨自ノ行動ヲ開始シタルガ、帝國政府ハ猶事態ノ全支波及ヲ避ケ、極力不擴大方針ヲ堅持シアリシニ依リ、第三艦隊司令長官ハ此ノ時ヲ以テ右申入ノ好機ト認メ、二十九日中華民國在勤帝國大使館附武官海軍少將本田忠雄ヲ司令長官代理トシテ南京ニ派遣シ、海軍部長陳紹寬及軍政部長代理同部政務次長曹浩森ト各別個ニ會見セシメテ、左ノ要旨ノ申入ヲ行ハシメタリ。

申入要旨

一 第三艦隊ハ帝國ノ事變不擴大方針ニ基キ、出先各部共能ク此ノ趣旨ヲ體シ慎重ナル態度ヲ堅持シツツアリ。

二 然ルニ中南支ニ於テ排日行動或ハ軍隊ノ集中等行ハレ重大事件發生ノ誘因ヲ激成セシメツツアルハ我方ノ頗ル遺憾トスル所ナリ。此ノ際速ニ適切有效ナル取締ヲ勵行セラレンコトヲ要望ス。

三 若シ今後右ノ如キ狀態ガ進行シ事件ノ發生ヲ見ルニ於テハ、第三艦隊ハ已ムヲ得ズ兵力ヲ行使セザルヲ得ザルニ至ルベシ。

支那側一應
諒承ス

右ニ對シ兩部長ハ何レモ十分諒承ノ旨ヲ述べ、中南支ニ於テ事件ヲ惹起セシメザル様誓言セリ。仍ツテ本田武官ハ、此ノ上トモ一層努力セラルト共ニ出先各部ニ之ヲ十分徹底セシメ、誤解若シクハ一部ノ煽動ニ依ル事端ノ發生ヲ防止スル様希望ストノ旨ヲ述べ會見ヲ終了セリ。

上海方面ノ
情勢惡化ス

當時上海方面ニ於ケル一般情勢ハ漸次惡化シ、北支戰勝ノ宣傳其ノ他謠言等頻リニ行ハレ、人心動搖シ財界亦惡化ノ兆アリ。且支那側ハ帝國海軍ノ積極的行動開始ニ即應スルノ準備ヲ爲シ、其ノ優秀飛行機數機ハ虹橋飛行場ニ待機シ、又舟山叢島方面ヲ偵察スル等情勢豫斷ヲ許サザルモノアリ。

第三艦隊司
令長官時局

右ノ情勢ニ鑑ミ第三艦隊司令長官ハ七月二十九日、時局對處方針ヲ談話ノ形式ヲ以

對處方針ヲ
發表ス

右發表要旨

第五篇 全支作戦展開前ニ於ケル第三艦隊ノ行動

四二四

テ發表セリ。其ノ要旨左ノ如シ。……
我ガ艦隊ハ各地所在ノ帝國官民ト共ニ事端發生ノ阻止ニ努ムルト共ニ此ノ際協
カスベキ支那當局ノ措置竝ニ情況ノ推移ニ對シテハ重大ナル關心ヲ有スルモノ
ナリ。若シ支那ノ中央及地方當局ノ處置適當ナラザル爲ニ事態惡化シ收拾ノ策
ナキニ至ル場合我ガ方第三艦隊ハ其ノ任務遂行上必要ナル手段ヲ執ルノ已ムナ
キニ至ルベシ。
此ノ際在留同胞ノ冷靜自重ヲ希望スルト共ニ日支兩國永遠ノ和親ノ爲將又東洋
平和確保ノ爲各地ニ於テ一切ノ不祥ナル事件ヲ防止スルコトニ關シ支那關係當
局ノ慎重ナル注意ト最善ノ努力ヲ拂ハレンコトヲ希望シテ已マズ。

第二項 驅逐艦蓮ノ特別任務行動

第三艦隊司令長官ハ日支關係ノ機微ナル事情ニ鑑ミ、驅逐艦蓮艦長海軍少佐塚本守太郎ヲシテ次ノ通特別任務ニ依リ行動セシメ、以テ作戰資料ノ一助ト爲シタリ。

第一次行動

第一次行動(七月二十五日指示)

任務及行動ニ關スル指示

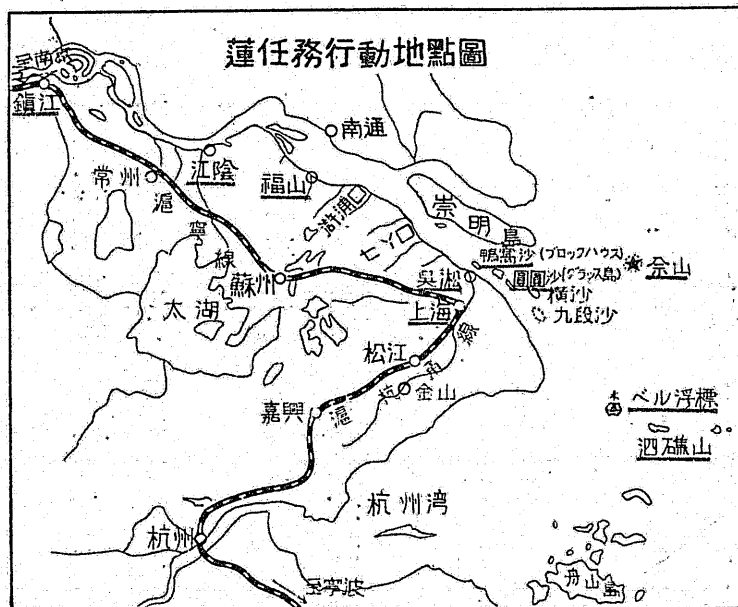
一 任務

左ノ諸項ノ調査監視

- (一) 吳淞方面支那艦船ノ行動。
- (二) 軍隊軍需品ノ移動情況。
- (三) 吳淞要塞ノ情況變化ノ有無。
- (四) 黃浦江上陸地點「グラス」島及「ブロックハウス」島ノ調査。

二 行動要領

- (一) 吳淞ヲ中心トシ概ネ福山沖ヨリ圓圓沙「グラス」島ニ至ル水域ヲ移動警戒スルモノトス。但シ對外刺戟及我が用兵上ノ企圖ヲ暴露セザルコトニ特ニ注



次行動ヲ終了セリ。

第二次行動

第二次行動(八月六日指示)

意スルヲ要ス。

(二) 江陰鎮江其ノ他ニ行動スル場合ハ特
令ニ依ル。

(三) 特令ナケレバ第一次行動ハ七月三十
日迄トシ、同日便宜上海ニ歸投スルモノ
トス。

第二次以後ノ行動ハ追テ指示セラルルモノ
トス。

右ニ依リ驅逐艦蓮ハ二十六日午後二時上海出
港吳淞沖ニ至リ、爾後同地ヲ中心トシテ行動シ、
同三十日早朝上海ニ歸投、任務報告ヲ了シ、第一

任務及行動ニ關スル指示

一 任務

第一次行動ニ依ル任務ノ外

- (一) 吳淞方面(主トシテ黃浦江内)兵要調査。
- (二) 「ブロックハウス」島豫定航空基地ノ調査。
- (三) 泗礁山島前進根據地ノ調査。

二 行動要領

右要地ノ調査ニ當リテハ日出前又ハ日没後等ノ時機ヲ選ブノ外、支那哨戒機ニ暴露セザル如ク計畫實施スルヲ要シ、努メテ我が用兵上ノ企圖ノ隱蔽ニ努ムベキモノトス。尙別ニ沖繩丸ノ海底電線修理ノ護衛ヲ命ゼラル。

右ニ依リ蓮ハ八月六日午後六時上海出港、吳淞沖及馬鞍群島附近ヲ行動シテ指示セラレタル任務ヲ遂行シ、同月八日午後五時十分上海ニ歸港シ、任務報告ヲ行ヒ本行動ヲ終了セリ。註

註 驅逐艦蓮ノ特別任務行動ニ先ダチ驅逐艦栗^{艦長海軍少佐大河原肇}ハ第三艦隊司令長官ノ命ニ依リ監視哨

第五篇 全支作戦展開前ニ於ケル第三艦隊ノ行動

四二八

戒及調査ノ目的ヲ以テ七月二十日吳淞七丫口及漕浦口方面同二十一日二十二日江陰鎮江方面同二十四日九段沙方面ニ夫々行動セリ。七月二十四日第十一戰隊司令官ノ命ニ基キ蓮ハ燕湖發上海ニ下航シ來リ、栗ハ之ト交代シテ同二十八日漢口ニ回航セリ。